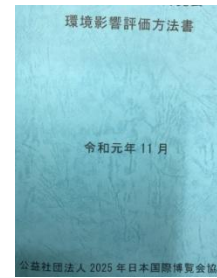


万博アセス「専門委員会」報告書

2月26日、大阪市環境影響評価専門委員会「2025年日本国際博覧会環境影響評価方法書についての検討結果報告書」が公表された。写真は昨年11月に縦覧された2025年国際博覧会協会『環境影響評価方法書』。私も「方法書」に関する意見書を提出した。2月21日に市民団体が行った大阪市環境局・港湾局、博覧会協会との懇談でも、専門委員会答申を問題にしたので、報告書の概要を紹介したい。



報告書は全体で66ページであり、次の4項目などで構成されている。Ⅰ環境影響評価方法書の概要 Ⅱ検討内容 Ⅲ意見書の概要 Ⅳ指摘事項

Ⅱ検討内容の冒頭—当委員会では「方法書」について、専門的・技術的な立場から検討を行い、事業者が環境影響評価を実施するにあたり、配慮すべき事項を取りまとめた。全般的事項として、方法書に対して51通の意見書が提出されていること、事業計画、複合的な影響、交通計画、環境影響評価項目の選定等について述べている。そのあと、大気質、水質・底質などについて事業者への照会した「事業者提出資料」へのコメントが記載されている。

Ⅳ指摘事項の冒頭—当委員会では、事業者から提出された方法書について、技術指針に照らし、環境影響評価項目ごとに専門的・技術的な立場から検討を行った。その結果、方法書の記載内容は対象事業に係る環境影響評価を行う方法としては概ね妥当なものとするが、より一層、環境の保全に配慮した事業計画となるよう、次のとおり環境の保全の見地からの意見をとりまとめた。大阪市長におかれては、これらの事項が準備書の作成等に反映されるよう事業者を十分指導されたい。

全般的事項として、事業計画について、SDGsの個別目標の達成に向けた具体的な取組内容を明らかにすること。交通計画について、開催期間中には自動車交通量の増加による環境影響が懸念されることから、その影響を可能な限り低減すること。このあと、水質・底質、廃棄物・残土、地球環境、景観について意見を指摘している。

おわりに—本事業においては、SDGs達成に貢献する環境技術のショーケースとして、先進技術の積極的な導入等により、持続可能な社会の実現に向けたさらなる取組を推進されるよう重ねて要望する。

なんだか想定されたような専門委員会答申である。「専門的・技術的な立場から検討」として、夢洲特有の問題やリスク、万博という大規模イベントの環境影響という視点に欠けている。事業者である博覧会協会の提出資料について、十分な検討もなく「是認」しているのも問題だ。6日に予定される「市長意見」とともに、本答申を検討したい。

(2020年3月4日)